

## 巻頭言

## インターネットと医療

星 博昭

遠隔医療の時代を迎えようとしています。インターネットの利用が進み遠隔画像診断へ応用されるとは思っていましたが、インターネットが医療の世界はもとより経済全体の形態を変えてしまうことになるであろうことは予想しませんでした。また、今日の生活の身近な例では携帯電話は急速な発展を遂げ、インターネットを利用したE-mail、電子手帳、ナビゲーション、音楽やゲームのリリースが行われています。今後は、モバイル、カーナビ、ウォークマン、テレビ、テレビ電話、テレビゲーム、パソコンといったものの融合した製品となることは間違いないでしょう。医学への応用として病院外来受付予約、検査結果の通知などの普及、研究面では文献検索などどこにいても携帯電話(?)で、出来るようになるでしょう。

振り返ってみると、1950年代後半は電話、テレビなど個人で所有していると話題になった時代でした。その後急速に普及し、電話は10年以上前から、海外の一部では携帯電話が使われはじめ、日本での普及も時間の問題と思われていました。少し前、世の女子高生が、近くに電話があっても、ちょっとしたE-mail的にポケットベルを使用していたのもびっくりしましたが、時代の変化は速く、携帯電話で銀行振込などができる様になったと聞いて、情報が漏れたり、間違っただけで請求が来ないだろうかと思いつつ、これは時代についていけなくなっていると感じています。

さて、断層映像研究会雑誌の第一巻は1973年ということなので、数年後に30年目を迎えることとなります。これまで、断層映像は新しいモダリティが次々出現発展してきましたが、21世紀にはさらに大きく変容を示すであろうことはこれまでの巻頭言でも述べられてきました。新たな診断装置の開発だけでなく、画像診断領域においては、存在診断としては画像処理とコンピュータによる画像診断の発達により病変の見逃しはなくなり、質的診断も自動診断で鑑別診断が確立の高い順にその%とともに列挙されるようになるということです。まさかと思っていることが実現されてしまう時代です。近い将来の次世代の断層画像診断法の出現を楽しみにしています。

(岐阜大学医学部放射線科)